

第5学年社会科学学習指導案

対象 5年1組 33名
 授業者 岡島 謙太
 対象 5年2組 32名
 授業者 長友 幸夫
 対象 5年3組 33名
 授業者 佐々木みなみ
 対象 5年4組 33名
 授業者 齋藤 敦子

1 単元名 情報社会に生きるわたしたち ―「情報をつくり、伝える」―

2 単元の目標

我が国の産業と情報との関わりについて、情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、聞き取り調査をしたり映像や新聞などの各種資料で調べたりしてまとめ、放送、新聞などの産業の様子を捉えるとともに、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することを通して、放送や新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解できるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①我が国の産業と情報との関わりについて、放送、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることなどを理解している。 ②聞き取り調査や映像、新聞など、各種の資料で必要なことを調べ、適切にまとめている。	①情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子をとらえ、放送や新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現している。	①情報をつくり伝える仕事について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追究しようとしている。 ②情報社会に生きる一員として、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや、送り手として責任をもつことの大切さについて考えようとしている。

4 研究主題に迫る工夫や手だて

(1) 主体的に学び続ける児童の育成のために【見通すことについて】

① 児童と作る学習計画

- ・児童の気付きや疑問から学習問題をつくり、調べる観点を決めることで、児童の思考の流れに沿った計画を立てるようにする。
- ・学んだことを生かして「自分たちで新聞を作成する」という単元のゴールを明確にすることで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

② 見通しの視覚化

学習問題や調べる観点、活動のゴールを掲示し、毎時間の学習内容を教室後方のホワイトボードに書き残していくことで、学習の過程を随時確認できるようにする。これまでの学習で積み上げてきたことが、本時や次時の学習の見通しをもつための手だてとなるようにする。

③ 教科の特性、発達の段階に合わせた工夫

- ・学習過程を「つかむ→調べる→まとめる→生かす」の段階で構成することで、見通しをもって学習問題を追究したり、学習の成果を生かしたりできるようにする。
- ・新聞を見たり読んだりした経験のない児童がいることが想定されるため、実際の新聞を用意して見たり読んだりすることで、他のメディアと比べた新聞の特徴などに気付けるようにする。

(2) 主体的に学び続ける児童の育成のために【振り返ることについて】

① 振り返りの観点を踏まえた話型や項目の提示

1. 学習内容の確認	分かったこと（知識・技能）【概念・操作・習熟】
2. 学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり一般化したりする	もっと知りたいこと（思考・判断・表現等の力）【活用】 今日の学びのつながり（主体的に学習に取り組む態度）【関連付け】
3. 学習内容を自らとつなげ自己変容の自覚する	できるようになったこと（主体的に学習に取り組む態度）【自己変容】 学び方・方法（主体的に学習に取り組む態度）【学び方の自覚】

振り返りの観点を示し、振り返りのしかたを知ることで、既習の学習内容や日常生活と関連付けたり、自己の変容を自覚したりできるようにする。

② 振り返りのしかたとタイミング

1学期から毎時間の気付きや疑問を記録する「きづきもん（小さな振り返り）」と、学習のまとめや単元の終末などに記録する「まなビジョン（大きな振り返り）」を使い分けて振り返りを行ってきた。このように振り返りのしかたやタイミングを工夫することで、学習してきたことを整理し、体系的に自己の学びを捉えられるようにしていく。

きづきもん（小さな振り返り）の観点

- ・分かったこと
- ・気付いたこと
- ・もっと知りたいこと 等

まなビジョン（大きな振り返り）の観点

- ・学習問題に対する自分の考え
- ・自分たちとの関わり
- ・見方、考え方の変化 等

(3) 主体的に学び続ける児童の育成のために【共通することについて】

① eポートフォリオの活用

- ・「きづぎもん」や「まなビジョン」をスプレッドシートに記録することで、自己の気付きや疑問などについて見返したり、これまでの学習とのつながりを捉えたりできるようにする。
- ・社会科見学（ニュースパーク）の様子を写真や動画などで共有ドライブに保存し、常時活用できるようにすることで、過去の学びを思い出したり生かしたりしながら学習できるようにする。

5 単元の指導計画と評価計画（全10時間）

次	時	・主な学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準
1	1 (2組)	・情報に対する今のイメージを書く。 ・様々なメディアの特徴や信頼度を調べる。 ・新聞の信頼度が高いことに着目して、学習問題をつくり、予想を立てたりする。	○身の回りの様々なメディアから情報を得ていることに気付かせる。 ○「年代別各メディアの信頼度」のグラフから、新聞の信頼度が全体的に高いことを押さえる。 ○新聞の信頼度が高い理由を予想させることで、新聞社の工夫に迫る計画を立てられるようにする。 ○単元のゴールを伝え、今後の学習（活動）の見通しをもたせる。	◇新聞の信頼度が高いことに着目して学習問題を立てたり、学習問題に対する答えを予想したりしようとしている。 【主】ウ-①
		新聞の信頼度が高いのはどうしてだろうか。		
2	2 (4組)	・新聞を読み、新聞が信頼される理由を探したり、新聞がどのようにして作られているかを考えたりする。	○実物の新聞に触れさせて、学習問題に沿った観点（発信源、情報の内容、編集過程など）から新聞が信頼される理由を調べられるようにする。	◇新聞が信頼される理由について気付いたり、新聞がどのように作られているかについて考えたりすることができる。 【思・判・表】イ-①
	3	・新聞記事の情報が、どのようにして集められているか調べる。	○社会科見学で学んだことを想起させ、経験に基づいた学習ができるようにする。	◇取材記者が社会の出来事などの情報を集め、取材して記事を書いていることを理解している。 【知・技】ア-②
	4	・集められた記事からどのように新聞が完成するのか調べる。	○写真資料を準備し、新聞の制作過程を捉えさせ、関わる人や作	◇正確な情報を早く読者に届けるために、多くの人がかか

			業量の多さに着目できるようにする。 ○新聞社で働く人たちの思いや仕事の工夫に目を向けさせる。	わっていることを理解している。 【知・技】ア-②
	5	・複数の異なる新聞社の記事を比較し、情報の伝え方による影響を考える。	○新聞社の意図に着目して新聞の内容を比較させる。（同一日の違う新聞社の一面・同じ情報を伝えている複数の新聞社の一面） ○報道被害についての資料から発信される情報が社会に与える影響について、情報の送り手と受け手の双方の立場から考えさせる。	◇新聞社によって記事の大きさ、内容が違うことや発信される情報が社会に大きな影響を及ぼすことを理解している。 【知・技】ア-①
3 まとめる	6 (1組)	・学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ・次時以降、自分たちが新聞づくりを行う上で大切にしたいことを話し合う。	○新聞ができるまでの工夫や努力、新聞が国民生活に果たす役割等について振り返らせる。 ○これまでの学習を想起させ、信頼される新聞を作成するために必要なことを考えさせる。	◇新聞が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現している。 【思・判・表】イ-①
	7	・情報社会で生じる問題点を知り、自分たちの生活との関わりや新聞を作成するにあたっての留意点を考える。	○情報の問題点についてイメージしやすいように事例を紹介したり、補足説明をしたりする。 ○情報の受け手や送り手として、どのように情報と関わっていくべきかを考えさせる。	◇情報の適切な取り扱い方について、自分の考えを表現している。 【思・判・表】イ-①
4 生かす	8 (3組)	・これまでの学習を生かし、自分たちでテーマを設定して新聞を作成する。	○新聞社の工夫や努力を想起させ、情報の送り手としての責任について考えさせる。	◇情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、情報の送り手としての責任をもちながら新聞を作成しようとしている
	9	・収集した情報を選択、加工して紙面をつくる。	○信頼度が高い新聞になるように、今まで学習してきたことを想起させる。	
	10	・紙面の最終チェックを行い、新聞を完成させ、読み合う。	○自分たちが作成した新聞の情報の妥当性や正確性を確認させる。	【主】ウ-②

6 本時の指導①（1/10時間 5年2組）

（1）本時の目標

メディアの特徴やわたしたちの生活との関係について考え、学習問題や予想をもつことができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 10分	1. メディアへのイメージをもつ。 ・テレビのニュース ・情報を伝える。 ・インターネット 2. 様々なメディアの特徴について知る。	○学習前のメディアへのイメージをスプレッドシートに記入させ、第6時で学習前と学習後のイメージの変化が分かるようにする。 ○「メディアの種類と特徴」の動画を見せ、それぞれのメディアの特徴を知る。
展開 32分	3. 年代別各メディアの信頼度の資料を読み取り、学習問題を考える。 ・インターネットはどの年代でも信頼度が低いね。 ・新聞とテレビは信頼されているね。 新聞の信頼度が高いのはどうしてだろうか。 4. 学習問題の答えを予想する。 ・たくさんの人が関わっているから、信頼度が高いのかな。 ・誰かがチェックをしているのかな。 ・新聞が届くまでにたくさんの作業がありそうだな。 ・社会科見学で、取材をしているから、正しい情報を届けられるという展示があったな。	○資料を読み取り、分かったことや疑問を全体で共有し、学習問題を作らせる。 ○必要に応じて、インターネット上にある情報の特徴に関する動画を見せる。どうしてインターネットがほかのメディアに比べて比較的信頼されていないのか考えさせ、学習問題の答えの予想へつなげさせる。 ○グループ全員で対話しながら予想させる。 ○出てきた予想を整理し、次時以降の調べ学習の観点（学習計画）となるようにする。 ◇新聞の信頼度が高いことに着目して学習問題を立てたり、学習問題に対する答えを予想したりしようとしている。 【主】ウ-①（発言・観察・ワークシート）
終末 3分	5. 単元のゴールを知り、次時以降の学習へ見通しをもつ。 八小新聞を作り、信頼される情報を届けよう。	○「自分たちで新聞を作り、学校に掲示する」という活動の見通しをもたせる。そのために、新聞が信頼される理由を調べていこうと学習の必要感をもたせる。

本時の指導②（2/10時間 5年4組）

（1）本時の目標

新聞を読んで、新聞が信頼される理由に気付いたり、新聞がどのようにしてできるかを予想したりすることができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 5分	1. 学習問題を確認し、本時のめあてを立てる。	○本時の学習の見通しをもたせる。 ○調べる観点（発信源、情報の内容、編集過程など）を示す。
	新聞が信頼される理由を調べよう。	
展開 35分	2. グループごとに新聞が信頼される理由を探る。 ・ 記事に新聞記者の署名がある。 ・ 大切な情報が多い。 ・ 当事者にインタビューしている。 ・ 根拠となるデータが示されている。 3. 各グループが調べたことを発表する。 ・ 記事を書いたのが○○支社の△△さんだと分かる。 ・ 政治に関する情報がある。 ・ インタビューして本人に確認している。 ・ グラフや表が示されている。出典も明らかになっている。	○実物の新聞を各グループに1部配布する。 ○グループ全員で対話しながら活動させる。 ○気付いた点、疑問点に付箋を貼らせる。 ○紙面のどこを根拠にしているかを明らかにしながら発表させる。 ◇新聞が信頼される理由について気付いたり、新聞がどのように作られているかについて考えたりすることができる。 【思・判・表】イ-①（発言・観察・ワークシート）
終末 5分	4. 【きづぎもん（小さな振り返り）】をスプレッドシートに入力する。 ・ 撮影者や撮影場所など、写真についての詳しい情報が信頼性を高めていることが分かった。 ・ テレビの信頼性についても知りたくなった。	○2つの観点から、本時の学習を振り返る。 ・ 分かったことや気付いたこと ・ これから調べたいこと、疑問点 きづぎもん（小さな振り返り）の観点 ・ 分かったこと ・ 気付いたこと ・ もっと知りたいこと 等

本時の指導③（6/10時間 5年1組）

（1）本時の目標

これまでの学習を振り返り、新聞が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現することができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 10分	1. これまでの学習で調べてきたことや分かったことを確かめる。 ・新聞には多くの情報が載っていたよ。 ・新聞が完成するまでに、たくさんの人が関わっていたね。 ・伝え方によっては世の中に大きな影響が出ることもあるよ。 ・情報を発信する際は、正確な情報を届けることが大切だ。 など 2. 本時のめあてを確認する。	○前時までの資料やノート、後方ホワイトボードを活用しながら学習内容を想起させる。 ○学習問題を確認してから本時のめあてを設定することで、学習問題を念頭に置いた振り返りができるようにする。 ○発問や問い返して、情報の発信者としての視点に気付かせる。
	学習を振り返り、自分の考えをまとめよう。	
展開 ① 23分	3. 学習を振り返り、【まなビジョン】をスプレッドシートにまとめる。 ・情報の受け手として正しく判断することや、送り手として責任をもつことが大切だと感じた。 ・発信される情報が社会に大きな影響を及ぼすことが分かったので、これから自分が発信するときは十分に気を付けていきたい。 4. 【まなビジョン】を発表する。	○「まなビジョン」の観点を示し、既習の学習内容や日常生活と関連付けたり、自己の変容を自覚したりできるようにする。 まなビジョン（大きな振り返り）の観点 ・学習問題に対する自分の考え ・自分たちとの関わり ・見方、考え方の変化 等 ◇新聞が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現している。 【思・判・表】イ-①（発言・ノート）
展開 ② 10分	5. 自分たちが新聞づくりを行っていく上で大切にしたいことを話し合う。 ・読み手が必要としている情報を記事にしてみたいな。（情報の有用性） ・集めた記事をチェックして、正しい情報を届けることが大切だね。（記事の正確性） ・表現の仕方や言葉に気を付けて、誤解を生まないようにしたいな。（表現の妥当性）	○「信頼される新聞とは？」と問うことで、これまでの学習内容と結び付けて話し合わせる。

	・役割を分担して複数人で作業することが、漏れや誤りをなくすことにつながるよ。 （作業の細分化・効率化） など	
終 末 2 分	6. 次時以降の見通しをもつ。	○「まとめる」段階から「生かす」段階に入ること を伝え、今後は自分たちが情報の送り手と して新聞を作成していくことを確認する。

本時の指導④（８／１０時間 ５年３組）

（１）本時の目標

情報の送り手としての責任をもち、送り手と受け手の立場から多角的に考えながら、新聞を作成することができる。

（２）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 ５分	1. 今まで学習したことの振り返りをする。 ・自分たちのグループは、表現の仕方に気を付けよう。 ・取材した内容の確かめに力を入れ信頼度を高めよう。 2. 本時のめあてを設定する。	○本時までに学習してきたことを教室内に掲示しておき、活用しながら今までの学習を振り返らせる。 ○前時までに決めた自分たちの新聞社の大切にしたいことを再度グループの全員で意識させる。 ○「生かす」の３時間の見通しをもたせ、どのように作成の計画を立てるべきかをグループごとに考えさせ、めあてを設定させる。
	取材した内容の確認をし、新聞の構成を決めよう。	
展開 ３分 ７分	3. 取材したり、調べたりして分かった情報の確認を行う。 ・取材したこの内容は記事にしなくてもいいかな。 ・この確認が信頼度につながるから、みんなで行おう。 4. どのような紙面にするかを話し合う。 ・こんな見出しだと、興味をもってもらえるかな。 ・この見出しだと勘違いされちゃうかもしれないよ。 5. 紙面の作成をする。	○新聞に載せる価値があるのか、分かりやすい記事になっているか、再取材が必要かなど、必要に応じて助言する。 ○言葉一つで情報の受け手の感じ方は違うことを想起させ、見出しの言葉なども考えるようにさせる。 ○作成前に再度自分たちの新聞社の大切なことを確認させる。 ◇情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、情報の送り手としての責任をもちながら新聞を作成しようとしている。
終末 ３分	6. グループで本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。 ・今日はここまで進んだね。次回はどこまでを目標にしようか。	○進捗状況を確認させ、次時は、どのように学習を進めていくべきかの見通しをもたせる。 【主】ウー②（発言・新聞）

